

# Book Review

## 歯科衛生士のための 歯科診療報酬入門 2020-2021

公益社団法人日本歯科衛生士会 監修/  
鳥山佳則・石井拓男・武井典子・金澤紀子・吉田直美 編



Reviewer

福田英輝 Hideki Fukuda  
(国立保健医療科学院 統括研究官)

B5判, 2色, 262頁  
定価(本体3,700円+税)  
医歯薬出版刊



本書は「歯科衛生士のための」入門書であるが、歯科点数表の解説本にありがちな無機的な書籍とは異なり、医療保険制度の概要や歯科点数表に特徴的な用語の解説など包括的な内容を含んでおり、歯科衛生士の卒前教育や卒業後研修はもちろん、歯科大学・歯学部の学生、臨床研修医にも適した入門書に仕上がっている。鳥山佳則先生をはじめ編集委員の先生方は、歯科点数表の改定に深く関わっておられ、かつ長年にわたり歯科衛生士の育成に尽力された先生方ばかりである。歯科点数表の理解を通じて、歯科衛生士に課せられている社会的な役割と期待を見つめ直してもらいたい、そんな思いも伝わる良書である。

「Ⅰ 歯科衛生士と歯科診療報酬」では、歯科診療報酬の改正を時間とともに追いつながら、歯科衛生士に求められる診療業務の質と広がりの変化が、図表とともに説明されている。ここでは、1) 平成2年(1990) 歯科衛生士の訪問指導、2) 平成4年(1992) 歯科衛生士による実地指導加算、3) 平成18年(2006) 機械的歯面清掃加算、

および4) 平成20年(2008) 施設基準としての歯科衛生士の配置が、画期的な改定として紹介されている。その後も、歯科衛生業務の評価は、周術期口腔機能管理、在宅訪問診療、さらには口腔機能管理の分野において認められてきた。このような視点で歯科診療報酬の改定を眺めてみると、歯科医療サービスを担うべき人材としての歯科衛生士の成長過程が確認できる。

「Ⅱ 医療保険制度の概要」「Ⅲ 歯科点数表総論」および「Ⅳ 歯科点数表の特徴」では、医療保険制度の概要と歯科点数表の解説が簡潔に説明されている。特に医科点数表にはなく歯科点数表に特徴的にみられる用語や略称、あるいは算定の単位(歯、根管、顎、口腔など)が丁寧に取り上げられている。先にも触れたが、これらの章は、歯科衛生士はもちろんのこと、歯科医師にとっても、医療保険制度や歯科点数表を理解する良い手引きになると信じる。

本書では、歯科点数表の学び方として、歯科点数表を全体として理解する方法、および臨床の事例から学ぶ方法の2つを紹介している。すなわち「Ⅵ

各論」では、歯科点数表全体を理解する方法として、著者らの主観ではなく、全国レセプトデータをもとに頻度の高い項目を抽出するとともに、新設項目である歯周病重症化予防治療(令和2年改定新設項目)や歯周病安定定期治療(SPT)など歯周病治療に関する新しい傾向にも配慮した項目を取り上げ、これら項目に対して系統的に詳細な解説を行っている。その一方で「Ⅶ 事例」では、歯科衛生士が多岐にわたる歯周治療、周術期口腔機能管理、および在宅医療について、経時的な治療の流れを確認しながら、診療日ごとの「治療内容」「歯科衛生士業務記録」「算定内容」を例示している。本章は、おのこの分野に精通した歯科衛生士が執筆を担当し、現場に即した歯科衛生士業務記録の例を取り上げるなど、歯科診療点数をリアルに学べる工夫がなされている。

本書は、歯科衛生士が「単なる請求事務の知識の習得」に留まることなく、「医療保険制度からの視点」で歯科衛生士業務を見つめ直すきっかけ作りにもなるテキストである。